

Ⅱ 関西支所における研究課題の取り組み

関西支所における研究課題の取り組み

1. 森林総合研究所の研究推進方向

独立行政法人森林総合研究所は、森林・林業・木材産業に係わる中核的な研究機関として、科学的知識の集積を図りながら、行政や社会的なニーズに応えるために分野横断的・総合的研究をいっそう推進することとなっています。そのため第3期中期計画（平成23～27年度）を策定し、以下のような重点課題・研究課題群を設定して研究を推進します。

重点課題 A 地域に対応した多様な森林管理技術の開発

研究課題群 A1 多様な施業システムに対応した森林管理技術の開発

研究課題群 A2 森林の機能発揮のための森林資源情報の活用技術の開発

重点課題 B 国産材の安定供給のための新たな素材生産技術及び林業経営システムの開発

研究課題群 B1 路網整備と機械化等による素材生産技術の開発

研究課題群 B2 国産材の効率的な供給のための林業経営・流通システムの開発

重点課題 C 木材の需要拡大に向けた利用促進に係る技術の開発

研究課題群 C1 木材利用促進のための加工システムの高度化

研究課題群 C2 住宅・公共建築物等の木造・木質化に向けた高信頼・高快適化技術の開発

重点課題 D 新規需要の獲得に向けた木質バイオマスの総合利用技術の開発

研究課題群 D1 木質バイオマスの安定供給と地域利用システムの構築

研究課題群 D2 木質バイオマスの変換・総合利用技術の開発

重点課題 E 森林への温暖化影響評価の高度化と適応及び緩和技術の開発

研究課題群 E1 炭素動態観測手法の精緻化と温暖化適応及び緩和技術の開発

研究課題群 E2 森林減少・森林劣化の評価手法と対策技術の開発

重点課題 F 気候変動に対応した水資源保全と山地災害防止技術の開発

研究課題群 F1 環境変動・施業等が水資源・水質に与える影響評価技術の開発

研究課題群 F2 多様な手法による森林の山地災害防止機能強化技術の開発

重点課題 G 森林の生物多様性の保全と評価・管理・利用技術の開発

研究課題群 G1 シカ等生物による被害軽減・共存技術の開発

研究課題群 G2 生物多様性を保全するための森林管理・利用技術の開発

重点課題 H 高速育種等による林木の新品種の開発

研究課題群 H1 林業再生と国土・環境保全に資する品種の開発

研究課題群 A2 林木育種の高速化及び多様なニーズに対応するための育種技術の開発

重点課題 I 森林遺伝資源を活用した生物機能の解明と利用技術の開発

研究課題群 I1 林木遺伝資源の収集、保存・評価技術の開発

研究課題群 I2 ゲノム情報を活用した森林植物の遺伝的多様性の解明と保全・評価技術の開発

重点課題 F には、平成23年3月に発生した東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故への対応として、森林内における放射性物質の分布と挙動、除染、海岸防災林に関する研究も含まれています。

2. 関西支所の担当する研究課題

上記のA～Iの重点課題のうち、木材産業や林木育種、遺伝に関する研究は、支所では実施していません。関西支所では林業現場や自然フィールドに密着した研究課題を中心に、以下のような課題を重点的・主体的に行っています（P7～10の課題一覧表参照）。

重点問題 A 地域に対応した多様な森林管理技術の開発

A122 優良壮齡人工林へ誘導するための施業要件の解明と立地・社会環境要因の評価

A1FS1 近畿中国地域の人工林資源の賦存特性に基づいた持続的利用を目指した林業技術開発のための予備研究

A2P03 現代版里山維持システム構築のための実践的研究

重点課題 G 森林の生物多様性の保全と評価・管理・利用技術の開発

G211 里山地域における森林の総合管理のための機能評価

また、関西支所が比較的大きな部分を担当する研究として、以下が挙げられます（括弧内は研究課題群）。

- ・国産材の利用拡大に向けた林業・木材産業振興方策に関する研究（B2）
- ・炭素動態観測手法や温暖化適応と緩和技術に関する研究（E1）
- ・環境変動・施業等が水資源・水質に与える影響評価技術に関する研究（F1）
- ・森林の山地災害防止機能強化技術に関する研究（F2）
- ・生物害による森林被害軽減・制御技術に関する研究（G1）

以上のほかにも、本支所体制の中で様々な研究テーマを分担し、あるいは大学など外部機関と共同研究を行っています。また、基盤事業（P10 の課題一覧表の「K」の項を参照）にも取り組んでいます。